

相續山河之峯谷取近通之義以爲名稱焉或曰倭武天皇巡狩東夷之國幸過新治之縣所遣國造毘那良珠命新令堀井流泉淨澄尤有好愛時停乘輿翫水洗手御衣之袖垂泉而沾便依漬袖之義以爲此國之名風俗諺曰筑波岳黑雲挂衣袖漬國是也

〔續日本紀光仁〕寶龜八年八月丁酉大和守從三位大伴宿禰古慈悲薨飛鳥朝天常道頭贈大錦吹負之孫

〔古事記傳二十〕常道は常陸なり萬葉二十六丁に比多知和名抄に常陸比太知比多に常字を書能乃多知波奈比多底里爾之氏とあるは變らず常に照を比多底里と云り此意なり又十三に常土と書り今本には常を當に誤れりさて知に陸字を書は陸奥の陸と云り陸道の意なり古今集顯注に常陸はひたかちをひたちとは申すなり陸をかちともよむなりと云る契冲が陸をかちとよめると未知すひたちとはひたみちなりと云るまことに然り古歌に東道の道のはてなる常陸とよめは東海道の極なればなり

〔倭訓栞前編二十五〕ひたち 常陸をよめりひたみちの略なり風土記にも道路不隔江海と見えたり新古今集にも東路のみちのはてなるひたち帯とよめり衣手のひたちとつゞくる事は萬葉集に出たり風土記に國俗諺に筑波岳黑雲掛衣袖漬國と見えたりされとひだどつゞけたるならんといへり

〔諸國名義考上〕常陸 和名抄に常陸比太知國府在茨城郡名義は略東方の極みなれば日高見の約り轉りたるにてはあらざるか日本書紀景行天皇卷に日本武尊云々蝦夷既平自日高見國還之西南歷常陸至甲斐國酒折宮云々また武内宿禰自東國還之奏言東夷之中有日高見國其國人男女椎結文身爲人勇悍是摠曰蝦夷亦土地沃壤而曠また此國風土記を万葉註釋に引たるには自黑前之山到日高之國云々時人謂之幡垂國後世言便稱信太國とあり釋日本紀に引たるには古老曰御宇難波長柄豐前宮之天皇御世云々分筑波茨城郡七百戶置信太郡此地本日高見國云々とあり延喜神名式に陸奥